

近世日本の現存する『近思録』注釈・講義録

ジェレミー・ウッド

Extant Early Modern Japanese Commentaries on Zhu Xi's *Reflections on Things at Hand*

Jeremy G. WOOD

The aim of this paper is to ascertain the number of extant Edo era (1603-1868) Japanese commentaries and lecture notes on Zhu Xi's (1130-1200) *Reflections on Things at Hand* (*Jinsilu*). Much of the research on Japanese Confucianism has focused on an examination of the Four Books and Five Classics of the Confucian canon. However there are many other important works which remain mostly neglected by modern scholarship. The *Jinsilu* is unfortunately one of these works. Wing-tsit Chan wrote an authoritative English translation of the *Jinsilu*, and in it also listed and described approximately 48 Japanese commentaries and lecture notes from the Edo period. He added to this number in a later Chinese language publication, with the number finally reaching 89. However since the publication of this work in 1982, almost no other research has been done on these Japanese commentaries. Now, with the aid of internet databases it is possible to examine to a greater extent just how many of these commentaries still remain extant in various libraries and institutions.

As a result of this paper's examination, it has now been ascertained that 101 Japanese commentaries and lecture notes remain extant from the Early Modern period. Also, 28 of these commentaries have been listed here for the first time as far as is known. This paper is merely a preliminary examination in order to aid further research on the Japanese interpretations of the *Jinsilu*. In order to understand how the various Japanese Confucian scholars actually interpreted and understood the *Jinsilu*, it will be necessary to examine the contents of these commentaries in detail and compare them to the various extant commentaries in China and Korea. It is hoped that this paper will play a part in furthering the understanding of the role played by this important Neo-Confucian text in Early Modern Japan and East Asia as a whole.

キーワード：近思録 宋学 朱熹 朱子学 日本儒学

はじめに

近世期日本の宋学に関する研究は四書五経の注釈を主とするといえる。しかし、四書五経以外にも重要なテキストが存在し、近世日本における宋学の受容・理解の全体像を把握するために注目すべきである。宋学の入門書と認識されてきた『近思録』はそのひとつの重要、且つ従来さほど研究されて来なか

った文献である。そこで、筆者は『近思録』が日本における宋学の受容にどのような役割を果たしたか、また『近思録』が中国や朝鮮と比して日本においてどのように解釈されたかを明らかにすることを目的としている。

しかし、近世日本の『近思録』学に関する先行研究は少ないため、日本の『近思録』注釈書等は全部でどれほどあったかはまだ解明されていないのが現状である。そのため、近世日本の『近思録』の受容とその理解を研究する第一歩として、まず本稿においては日本における近世期の現存する『近思録』関連資料とその所蔵先をできる限り網羅的に調査することを目的とした。その結果、101点の資料を確定することができた。さらに、先行研究において今まで指摘されて来なかった資料を28点確認しえた。

ここでは、わずかではあるが、まず日本の『近思録』関連資料を紹介した先行研究について整理してみたい。次に本研究により確認した現存する近世日本の『近思録』資料とその所蔵者を紹介することとする。

一、近世日本の『近思録』学に関する先行研究

近世日本の『近思録』資料を最も詳しく考察した先行研究として山崎道夫の『近思録』和文抄訳における解題¹⁾と、陳榮捷の『近思録』英訳における巻末の解説の一部分²⁾が挙げられる。

山崎氏は16点の近世期日本の『近思録』の注釈書や講義録を紹介しているにすぎないが、陳氏はその英訳において48点の資料を紹介している。しかし、陳氏は『国書総目録』第一巻のみをもとに調査しており、第二巻以降の『国書総目録』を参考していないようである³⁾。そして、英訳『近思録』の次に、陳氏の『朱学論集』においては、英訳に列挙された『近思録』の関連現存資料に新出資料がさらに追加されて89点となった⁴⁾。ただし『朱学論集』が刊行された1982年以降は、日本の現存する『近思録』資料に関する研究がほとんど見られない。

現在においては、電子データベースや近年刊行の書目を用い、日本の『近思録』資料をさらに網羅的に調査することが可能となった。そこで、日本古典籍総合目録データベース等を用い、陳氏が指摘した著書を含め、近世日本の現存する『近思録』資料を調査した。以下、各データベースや目録を検索した結果、現時点で確定できた現存資料とその所蔵先を列挙する。

1) 山崎道夫『近思録』「中国古典新書」(明德出版社、1967年)、55～60頁

2) Chan, Wing-tsit, *Reflections on Things at Hand: the Neo-Confucian Anthology*, Columbia University, New York, 1967, 347～358頁

3) 同上、「Preface」x頁を参照

4) 陳榮捷『朱学論集』(台湾学生書局、1982年) 168～176頁

二、現存する近世日本『近思録』注釈書・講義録とその所蔵先

凡例

一、本稿の『近思録』文献一覧表は主として以下の電子データベースや目録に基づいて作成した。

- 国文学研究資料館 日本古典籍総合目録データベース (<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/>)
- 岡野康幸、町泉寿郎編『江戸漢学目録』（二松学舎大学21世紀COEプログラム、2006年）
- 大阪大学文学部編輯『懐徳堂文庫図書目録』（大阪大学文学部、1976年）

各儒者の生没年は市古貞次他編『国書人名辞典』（岩波書店、1993年）、長澤孝三編『改訂増補 漢文學者總覽』（汲古書院、2011年）、平凡社編『日本人名大事典 復刻版』（平凡社、1979年）による。

一、各項目は、著者の姓名（名は出来る限り号に統一した）、生没年（西暦年）、書名、巻冊数、写本（【写】）・版本（【版】）・複製本（【複】）、活字にされたものを〔活〕、影印されたものを〔影〕、謄本を〔謄〕とする）のいずれか、所蔵先（『国書総目録』所蔵者略称による・所蔵者の書の冊数が異なる場合明記する）、内容の順である。配列は、各書の成立年代不明のものが多いため、おおむね各著者の生没年によった。

伊藤仁斎（1627-1705）

1. 読近思録鈔 一冊 【写】国会鶯軒、東北大狩野、天理古義堂（宝暦十四写）、日比谷井上、蓬左、宝山寺、【複】〔活〕『日本儒林叢書』五

中村惕斎（1629-1702）

2. 近思録抄校正 一冊 【写】国会
3. 近思録鈔説 十四卷五冊 【写】内閣、蓬左（五冊）、無窮織田（四冊）（三冊）、無窮神習（二冊）、宮城県図伊達（五冊）、国土館大楠本（三冊）、佐賀県図鍋島（二冊）、【版】日比谷諸家
4. 近思録示蒙句解 十四卷十冊 【版】岡山大池田、京大、東大（五冊）、東北大狩野、京都府、千葉、長崎、無窮織田、無窮真軒、静嘉（卷二・五欠、七冊）、愛知学芸、早大、竜谷、岡山県、【複】〔活〕『先哲遺著漢籍国字解全書』八、他多数

貝原益軒（1630-1714）

5. 近思録備考 十四卷八冊 寛文八刊 【版】国会、内閣、宮書、九大、京大、東大、大阪府、高知、米沢興讓、尊経、無窮織田、岡山県、【複】〔活〕『益軒全集』二、他多数

宇都宮遯庵（1633-1707）

6. 鼈頭近思録 六卷六冊 延宝六刊 【版】大谷、金沢大、九大、東大（六卷六冊）、山口、金沢市藤

本、東書（六卷六冊）、無窮織田、他多数

佐藤直方（1650-1719）

7. 近思録諸筆記 一冊 【写】蓬左
8. 近思録筆記 一冊 【写】無窮平沼（道体・為学）【版】内閣（佐藤先生語録の内）【複】〔影〕『佐藤直方全集』韞蔵録
9. 道体講義 【写】京大（二冊）、東北大狩野（元文元写三卷三冊）、秋田（一冊）、小浜図崎門（一冊）、長崎県図楠本（一冊）、【複】〔影〕『佐藤直方全集』韞蔵録

浅見綱齋（1652-1712）

10. 近思録講義 【写】慶大（一冊）、伊達開拓（「綱齋先生近思録講義」五冊）、国士館大楠本（嘉永四写二冊）、小浜図崎門（一冊）
11. 近思録師説 【写】京大（元文四写十三卷十三冊）、無窮織田（道体上欠、七冊、天明八識語）、無窮平沼（十四冊）、小浜図崎門（十冊）、仏教大平中（七冊）、土佐山内家宝資（六冊）
12. 近思録西銘師説 一冊 【写】小浜図崎門
13. 近思録道体講義 【写】小浜図崎門（享保十七写一冊）、（寛政十二写一冊）
14. 近思録道体師説 【写】小浜図崎門（安永二写二冊）
15. 近思録道体筆記 一冊 【写】無窮織田（元文四写）、長崎県図楠本（享保十三写）
16. 近思録道体篇附目錄講義 一冊 【写】無窮織田（享保十七写）
17. 近思録講義目錄為学 一冊 【写】武雄市鍋島
18. 近思録無極太極章講義 一冊 【写】慶大

室鳩巢（1658-1734）

19. 近思録講義 【写】京大谷村（江戸末期写三冊）、東北大狩野（二冊）、大阪天満宮（四冊）
20. 近思録図述 一冊 【写】広島大
21. 近思録道体講義 一冊 【写】無窮平沼

遊佐木齋（1659-1734）

22. 近思録講義 一冊 【写】伊達開拓

三宅尚齋（1662-1741）

23. 近思録講義 三冊（乾坤全・為学・道體）【写】佐賀県図鍋島
24. 近思録天木氏説 【写】蓬左
25. 近思録筆記 【写】九大（二冊）、東北大狩野（一冊）、日比谷加賀（元文二写）、大倉山（享和三安田近信写二冊）（天保六三浦行敬写五冊）（四冊）（一冊）、神宮（天明四写一冊）、無窮織田（「尚齋先生近思録筆記」、文化三写一冊）、無窮平沼（一冊）（「近思録三宅先生筆

記」、二冊）、関大（「尚齋先生近思録筆記」、小林貞亮記、三冊）、慶大（「尚齋先生近思録筆記」、明治写一冊）（一冊）、宮城県函伊達（明和三写四冊）、萩函和漢古書（天保三写三冊）、長崎県函楠本（明治期写三冊）、登米市寿庵（「尚齋先生近思録筆記」宝暦十写三冊）、登米市寿庵（「尚齋先生近思録筆記」一冊）

26. 読近思録筆記 【写】 九大（五冊）、日比谷加賀（元文二写一冊）、大倉山（稿本、欠本、四冊）（天保六三浦行敬写、辨異端編次を付す、五冊）、無窮織田（三冊）（二冊）、大阪天満宮（五冊）

伴部安崇（1668-1740）

27. 近思録講習日記 【写】 足利（卷三欠、宝暦八写五冊）

築田勝信（1743没）

28. 近思録集解便蒙詳説 二十四卷付録二卷二十六冊（元禄八刊）
【版】 京大、東大、東北大狩野、米沢興讓、神宮、無窮織田、旧浅野、[補遺] 竜谷
【複】 [活] 『校註漢文叢書』十、他多数

若林強齋（1679-1732）

29. 近思録為学師説 四冊 【写】 無窮平沼、仏教大平中（二冊）
30. 近思録講義 【写】 無窮織田（一冊）（二冊）、無窮平沼（十冊）、小浜函崎門（一冊）
31. 近思録師説 【写】 無窮神習（二十冊）、無窮平沼（十八冊）、小浜函崎門（九冊）（十二冊）
32. 近思録十四目講義 一冊 【写】 国会（叢書料本六）、無窮平沼、国士館大楠本（一冊）、武雄市鍋島（一冊）
33. 近思録道体講義 【写】 京大（坤卷一冊）、武雄市鍋島（一冊）

山本復齋（1680-1730）

34. 近思録忠信進徳章講義 一冊 【写】 小浜函崎門

稲葉迂齋（1684-1760）

35. 近思録綱領並編目 一冊 【写】 蓬左（寛政七写）

穂積以貫（1692-1769）

36. 近思録国字解 二十四卷二十四冊 【写】 無窮神習

五井蘭洲（1697-1762）

37. 近思録紀聞 【写】 大阪府（一冊）（三卷三冊）

久米訂齋 (1699-1784) 門人

38. 近思録講義 (別書名: 近思録師説) 十四卷八冊 【写】 無窮織田、登米市寿庵 (一冊) (明和五写一冊) (一冊)

小野鶴山 (1701-1770)

39. 近思録講義 十四卷 【写】 国会 (五冊)、無窮織田 (一冊) (「近思録訂正講義」、五冊)、無窮平沼 (十二冊)、小浜岡崎門 (四冊) (二冊) (一冊) 【複】 [謄] 『近思録講義』 (大正五)

竹内敬持 (1712-1768)

40. 近思録講義 十五冊 【写】 神宮 (二部)
41. 近思録十四目講義 二冊 【写】 無窮平沼 (内田周平写)

中村習齋 (1719-1799)

42. 近思録講義 一冊 【写】 蓬左
43. 近思録資講／読感興詩 一冊 【写】 蓬左、大倉山 (天保十五写)
44. 近思録助業考 一冊 【写】 蓬左
45. 小学近思四子六経一軌図 一冊 【写】 大倉山、国士館大楠本

宇井黙齋 (1725-1782)

46. 近思録筆記 【写】 東北大狩野 (十冊)、無窮平沼 (序目・道体、小出惟知記、一冊)、長崎県岡楠本 (「近思録宇井兄筆記」二冊)
47. 宇井兄近思録口義 二冊 【写】 無窮織田、大阪天満宮 (「黙齋宇井先生近思録口義」)

西依墨山 (1726-1800)

48. 近思録講義 【写】 久留米岡 (「近思録卷之一道體講義」安永六写一冊)、(八冊)
49. 近思録道体筆記 二冊 【写】 無窮神習

中井竹山 (1730-1804)

50. 近思録説 一冊 【写】 日比谷河田、無窮織田、無窮織田 (「竹山近思録説」)
51. 近思録標記 二冊 【写】 無窮神習、無窮平沼
52. 近思録 十四卷四冊 【版】 [書入本] 阪大 (「竹山先生首書近思録」)

稻葉黙齋 (1732-1799)

53. 近思録口義 【写】 東北大狩野 (十三冊)
54. 近思録講義 十四卷十四冊 【写】 日比谷加賀 (卷八、一冊)、大倉山 (一冊)、無窮織田 (嘉永三古

市隆彬写十一冊）、無窮神習、無窮平沼（三冊）、阪大（「黙翁近思録講義」一卷七冊）

55. 近思録筆記 十四冊 【写】千葉、米本

中井履軒（1732-1817）

56. 近思録聞書 三卷二冊 【写】国会

石川香山（1736-1810）

57. 近思録考 一冊 【写】鶴舞

川島栗齋（1811没）

58. 近思録講義目録道体 一冊 【写】無窮平沼

稲葉通邦（1744-1801）

59. 近思録尚齋筆記 一冊 【写】竹清

落合東堤（1749-1841）

60. 近思録講義 十四卷 【写】秋田（十冊）（二冊）、無窮神習（六冊）

61. 近思録道体講義 二冊 【写】無窮神習

古賀精里（1750-1817）

62. 近思録治法篇明道論十事講述 一冊 【写】国士館大楠本

田辺樂齋（1754-1823）

63. 近思録私考 一冊 【写】宮城小西（自筆）

64. 近思録筆解 六卷六冊 【写】宮城小西（自筆）

溪百年（1754-1831）

65. 經典余師（近思録之部）【版】[天保十四版]内閣（十四卷五冊）、大阪市大（十四卷十冊）、京大（十四卷十冊）

日原坦齋 [手塚坦齋]（1762-1834）

66. 近思録筆記 二冊 【写】無窮平沼

67. 近思録六有西録講義 一冊 【写】教大

石塚崔高 (1766-1817) 等編・古賀精里 校

68. 近思録集説 五卷四冊 【写】内閣、教大、無窮平沼 (文化十二写)、国士館大楠本、岡山県

御牧赤報 (1772-1833)

69. 近思録講義 二冊 【写】無窮織田 (為学)

山口菅山 (1772-1854)

70. 菅山先生近思録講説 【写】小浜図崎門 (八冊)、長崎県図楠本 (「菅山先生近思録講義」四冊)

佐藤一斎 (1772-1859)

71. 近思録講説／為学篇 二卷一冊 【写】東北大狩野

72. 近思録説 (別書名：近思録雕題) 二冊 【版】(天保三版) 岐阜

73. 近思録欄外書 三卷三冊 【写】国会 (一冊)、大谷。九大、東北大狩野、大阪府 (一冊)、無窮織田、無窮神習、無窮真軒、無窮平沼 (三冊本二部) (二冊)、旧三井鶚軒、日比谷井上 (十四卷三冊)、国士館大楠本 (明治十八写三冊)、二松学舎大惇斎 (三冊)、二松学舎大中洲 (二冊)、(明治十七写二冊)、福井市図 (一冊)、大阪天満宮 (三冊)、高知大小島 (天保十写三冊)、竹田図由学館 (三冊)

桜田虎門 (1774-1839)

74. 近思録摘説 十四卷 【写】教大 (五冊)、慶大、東北大 (文化十写十冊)、広島大 (六冊)、日比谷諸橋 (十一冊)、宮城、無窮平沼 (五冊)、米本 (十一冊)、伊達開拓 (一冊) (七冊)、宮城県図 (五冊)、佐倉高鹿山 (十冊)、国士館大楠本 (五冊)、大阪天満宮 (十冊)

75. 近思録摘疏 一冊 【写】伊達開拓

安部井帽山 (1778-1845)

76. 近思録訓蒙輯疏 二卷二冊 【版】内閣、京大、無窮織田、無窮平沼

77. 近思録輯疏 一冊 【写】会津

金子霜山 (1789-1865)

78. 近思録提要 【写】九大 (明治四写十四卷二冊)、栗田 (一冊)、米本 (一冊)、[補遺] 早大 (十四卷二冊)、早大古白 (二冊)

大沢鼎斎 (1813-1873)

79. 近思録詳説 七卷二冊 【写】無窮平沼

80. 近思録筆記 二冊 【写】無窮平沼、小浜凶崎門（「鼎斎先生近思録筆記」）

千葉重齋（生没年不明）

81. 近思録口義 四冊 【写】無窮織田（自筆）

小出惟知（生没年不明）稿、寺尾（生没年不明）朱批

82. 近思録会読筆記 六冊 【写】無窮平沼

沢田希（織部、生没年不明）

83. 近思録説略 十四卷五冊 享保五刊 【写】福島（享保写二冊）【版】内閣、宮書、大谷、九大（五冊）（九冊）、京大（五冊）（八冊）、教大、慶大、東北大狩野、東洋大哲学堂、秋田、高知、長野、日比谷諸橋、成田、無窮織田、米本、竜谷、岡山県、他多数

尚志弘毅 他（生没年不明）

84. 近思録筭記序目 二冊 【写】無窮平沼（道体）

平庸永（生没年不明）

85. 近思録十四目講義 一冊 【写】無窮織田（享保二十一写）

不破某（生没年不明）講、尾関権平（生没年不明）記

86. 近思録聞書 十卷 【写】九大

三宅帯刀（生没年不明）

87. 近思録集解拙鈔 二十五卷二十冊 【写】無窮織田

矢野撰徳（生没年不明）

88. 近思録国字講義 一冊 【版】無窮織田（道体）

著者不明

89. 近思録講義 【写】九大（十三冊）、京大（十三卷十三冊）、教大（十四卷十四冊）、慶大（一冊）、宮城、大倉山（六冊）、無窮織田（一冊）、無窮平沼（九卷一冊）、天理吉田（十二冊）、仏教大平中（四冊）、阪大（一冊）

90. 近思録口誼 二冊 【写】蓬左

91. 近思録資講 十四卷五冊 【写】京大

92. 近思録師説 【写】京大（七卷七冊）、京都府（十五冊）、小浜凶崎門（一冊）、長崎県凶楠本（二冊）

93. 近思録私説／道体正義 一冊 【写】 大倉山
94. 近思録師説筆記 十三卷十四冊 【写】 無窮平沼
95. 近思録集解 十四卷四冊 寛文十三刊 【版】 長沢規矩也
96. 近思録道体筆記 一冊 【写】 大倉山 (天保六写)
97. 近思録筆記 【写】 九大 (五冊) (一冊)、京大 (一冊) (松岡叢書四十三)、東北大狩野 (一冊)、蓬左 (三卷三冊)
98. 近思録附説 三冊 【写】 無窮平沼
99. 近思録目録講義 一冊 【写】 大倉山 (宝永二写)
100. 近思録輪講笥記 一冊 【写】 無窮織田
101. 省高近思録抄考 一冊 【写】 石川県歴博長岡

以上の一覧でわかるように、近世日本の現存する『近思録』関連資料が101点あることがわかった。書目や伝記資料、人物辞典などには、これ以外にも多くの『近思録』関連著述を載せているが、現存が確認できないものについては載せなかった。

また、先行研究で未紹介の資料も28点あることが確認できた。それぞれの番号を以下のとおり示す。

1・7・9・12・14・16・17・22・23・26・27・29・34・38・45・48・52・59・62・70・75・89番
の宮城、天理吉田、仏教大平中、阪大の各所蔵書・92番の小浜凶崎門、長崎県凶楠本の各所蔵書

陳氏は他10点の書をも指摘しているが、これらの所蔵先は未確定のため、上の一覧表には加えていない。以上が現時点でわかる近世日本の現存する『近思録』関連資料の全部である。調査を進めるにつれて増加する可能性も十分あると考える。

おわりに

以上でわかるように、近世期日本の現存する『近思録』の関連資料を101点確定することができた。さらに、先行研究で指摘されて来なかった資料を28点確認しえた。

今後の課題として、上記の各『近思録』資料を収集し、それらの書誌学的情報を確認する。そして、それらの内容を考察し、各儒者やその学派において『近思録』がどのように解釈されたかを考察する。『近思録』が近世日本の宋学を受容や発展にどのような役割を果たしたかを今後解明していきたい。さらには、中国や朝鮮の『近思録』に関する著述を視野に入れ、相互に比較することも必要かと思われる。

これにより、日本だけでなく、東アジア全体における『近思録』の受容と解釈が明らかになると考える。